

第 1 号様式

(第 1 面)

事業活動脱炭素化取組計画書

(宛先) 川崎市長

郵便番号 105-0021

住 所 東京都港区東新橋 1 丁目 9 番 1 号

氏 名 株式会社レゾナック

代表取締役 高橋 秀仁

(代理人) 川崎事業所長 鈴木 賢二

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第 10 条第 1 項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社レゾナック		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区扇町 5 - 1		
該当する事業者の要件 及び温室効果ガスの排 出を行う産業、運輸そ 他の部門	<input checked="" type="checkbox"/>	規則第 4 条第 1 号該当事業者	産業 部門
	<input type="checkbox"/>	規則第 4 条第 2 号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第 4 条第 3 号該当事業者	部門
	<input checked="" type="checkbox"/>	規則第 4 条第 4 号該当事業者	工業プロセス 部門
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	化学工業製品の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量	399,371 kL
	<input type="checkbox"/>	自動車の台数	台
	<input checked="" type="checkbox"/>	エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	76,471 t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX 番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

計 画 期 間	2025 年度 ～ 2027 年度
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制	別添 指針様式のとおり
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項	別添 指針様式のとおり
自動車の使用に伴う温室効果ガスの排出の量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項	別添 指針様式のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取り組みについては、ホームページにて公表しています。 https://www.resonac.com/jp/sustainability/environment/solution.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
 3 計画書には、事業活動脱炭素化取組指針に定める資料を添付してください。
 4 ※印の欄は記入しないでください。

1 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針

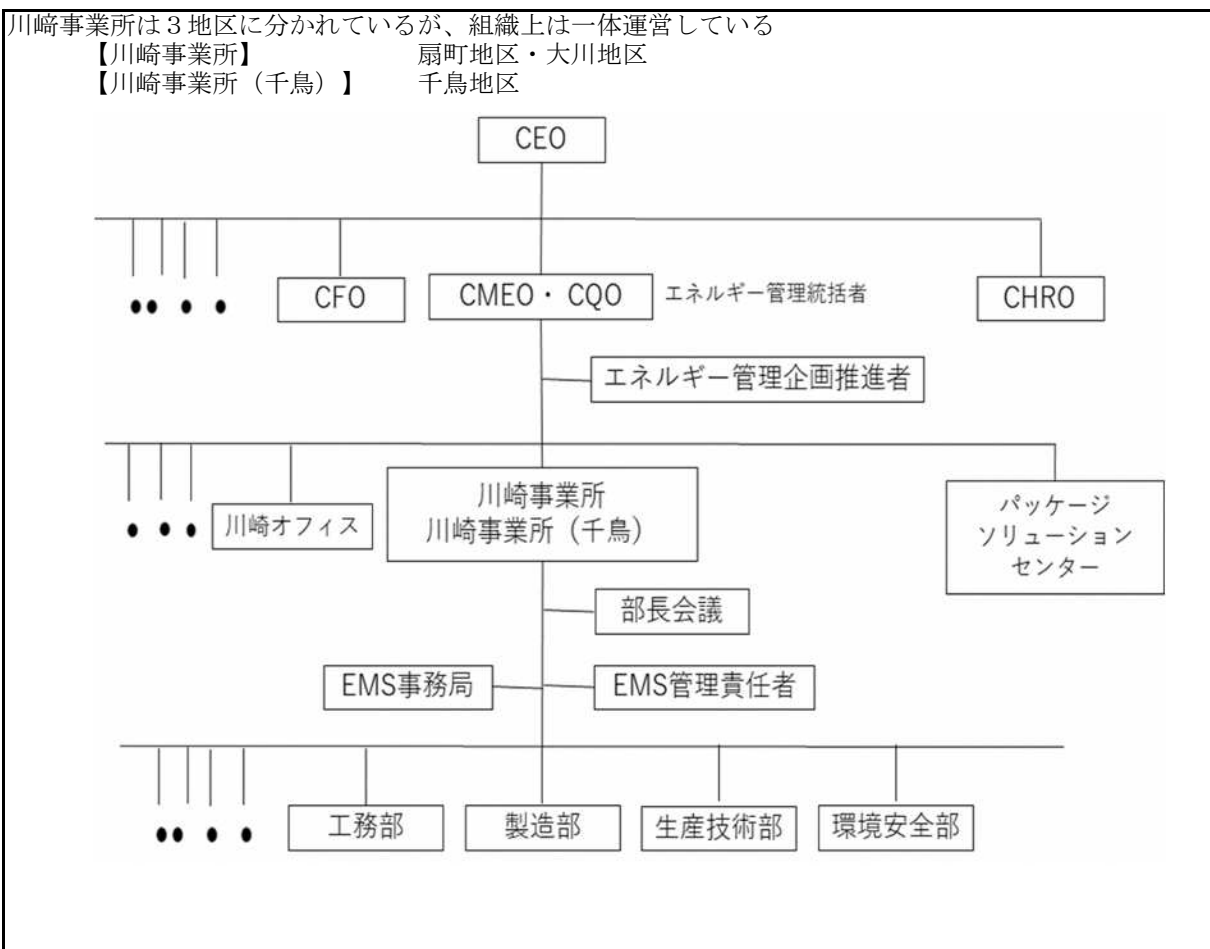
(1) 温室効果ガス排出量の削減等に向けた方針

1. 事業者
 - (1) 製品の全ライフサイクルにおいて、安全及び健康を確保し環境を保護する観点から、事業活動を継続的に見直すとともに改善に努める。
 - (2) 生産活動において、従来型の環境保全はもとより、原料転換、省エネルギー、廃棄物の減量・再資源化、化学物質の排出量削減等を推進し、地球環境との調和による持続的発展に努める。
 - (3) 新製品開発、新規事業、設備の新設・増設・改造において、安全と健康の確保及び環境の保護に配慮する。
 - (4) 安全と健康の確保及び環境の保護に寄与する研究開発、技術開発を推進し、代替製品・新製品の事業化の推進を図る。
2. 事業所
 - (1) 化学製品の使用、廃棄・リサイクルまでの全ての段階で廃棄物や環境負荷の削減、省資源、省エネルギー等環境保全に配慮した活動に努める。
 - (2) 川崎事業所の活動が環境に及ぼす影響を認識し、継続的な改善に努める。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDC Aサイクル）を行うための方針

年度計画の実施項目の進捗管理とエネルギー使用量および排出量の実績管理を行い、予算管理も含めて安定運転と省エネ課題を整理し、年度計画の見直しを行う。

2 温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制



3 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項

(1) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量((基)は基礎排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。)

	1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
基準年度	2024	年度	2024	年度	2024	年度
目標年度	2027	年度	2027	年度	2027	年度
基準排出量 (t-CO ₂)	(基) 920,068 (調) 920,068		(基) 76,471 (調) 76,471		(基) 76,471 (調) 76,471	
目標排出量 (t-CO ₂)	(基) 897,268 (調) 897,268		(基) 74,801 (調) 74,801		(基) 74,801 (調) 74,801	
削減量 (t-CO ₂)	(基) 22,800 (調) 22,800		(基) 1,670 (調) 1,670		(基) 1,670 (調) 1,670	
削減率	(基) 2.5 % (調) 2.5 %		(基) % (調) %		(基) 2.2 % (調) 2.2 %	

イ 温室効果ガスの排出の量の実績

			1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
第1年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基)	(調)	(基)	(調)	(基)	(調)
		削減量 (t-CO ₂)	(基)	(調)	(基)	(調)	(基)	(調)
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第2年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基)	(調)	(基)	(調)	(基)	(調)
		削減量 (t-CO ₂)	(基)	(調)	(基)	(調)	(基)	(調)
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第3年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基)	(調)	(基)	(調)	(基)	(調)
		削減量 (t-CO ₂)	(基)	(調)	(基)	(調)	(基)	(調)
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

(2) これまでの取組における温室効果ガス排出の量の削減目標等

比較年度	1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
	2013	年度	2013	年度	2013	年度
比較年度排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)	737,457 679,452	(基) (調)		(基) (調)	113,808 113,808
目標排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)	897,268 897,268	(基) (調)		(基) (調)	74,801 74,801
削減率(目標)	(基) (調)	-21.7 % -32.1 %	(基) (調)	% %	(基) (調)	34.3 % 34.3 %
削減率(第1年度)	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %
削減率(第2年度)	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %
削減率(第3年度)	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %

(3) 目標設定に関する説明

<p>2013年当時は1号、4号t-CO₂合算報告であるため当時の報告値を入力しています。 [(基)増加要因] ※エネルギー起源排出量削減に取り組んで来ましたが、以下の要因で現在排出量が大きくなっています。 ・2018年発電所における売電契約が変更となりCO₂排出量(負担分)が大きくなった。 ・2025年に発電所の燃料(石油コークス)のCO₂排出係数が大きくなった。 ・アクリロニトリル生産による非エネCO₂(オフガス由来)が算定対象となった。 (排出係数0.73 t-CO₂)</p>

(4) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施する温室効果ガスの排出量の削減に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年発電所リプレイス計画における既存事業再編計画 ・KPR運転効率化によるエネルギー使用量削減 ・生産調整や既存事業の再編計画 ・照明LED化/空調更新
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間における排出量の増減等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

4 エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項

(1) エネルギーの使用量に係る原単位等の値(1、2号該当者)

原単位等の活動量		寄与度	原単位等の単位			—
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度	
エネルギー消費原単位等の値	100.0				97.00	
活動量の値	—				—	
エネルギー消費原単位等の削減率		%	%	%	3.0 %	

(2) 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(4号該当者)

原単位等の活動量		寄与度	原単位等の単位			—
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度	
排出量原単位等の値	100.0				97.00	
活動量の値	—				—	
排出量原単位等の削減率		%	%	%	3.0 %	

(3) 目標設定に関する説明

エネルギー原単位の値：原油換算値/アンモニア換算製造量
 活動量：アンモニア換算製造量
 ※扇町・大川の数値です
 エネルギー原単位は5年平均=1%削減を目標としています。

(4) 基準年度からの原油換算エネルギー使用量等の推移 (1、2号該当者)

ア 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
原油換算エネルギー使用量	399,371 kL	kL	kL	kL
エネルギー起源CO ₂ 排出量	920,068 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
事業所の数	4			

イ 事業所単位

基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量<<クレジット考慮>> (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
株式会社レゾナック 基礎化学品事業部 川崎事業所	川崎市川崎区扇町5-1	895,882			
株式会社レゾナック 基礎化学品事業部 川崎事業所(千鳥)	川崎市川崎区千鳥町2-3	24,020			

(5) 計画期間のエネルギー消費原単位等の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施するエネルギー消費原単位の改善、エネルギー使用量の削減等に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年の発電所リプレイス計画における既存事業再編計画 ・ケミカルリサイクルプラント運転効率化によるエネルギー、13A使用量削減 ・照明LED化/空調更新
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間におけるエネルギー消費原単位等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

5 再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項(1、2号該当者)

(1) 再生可能エネルギー源等の導入

ア 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入(基準年度)

種類	設備規模 (kW)	発電量 (kWh/年)	余剰売電量 (kWh/年)	導入(保有)年度
太陽光				
風力				
バイオマス (燃料:)				
その他()				
その他()				
合計		0	0	

イ 使用電力の再生可能エネルギー電源比率

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
電力エネルギー 消費量	50,582,544 kWh	kWh	kWh	kWh	50,582,544 kWh
再エネ電源等	5,593,706 kWh	kWh	kWh	kWh	5,593,706 kWh
再エネ電源比率	11.1 %	%	%	%	11.1 %

(2) 電気事業者等から調達する電力の排出係数

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
排出係数 (kg-CO ₂ /kWh)	0.404				0.404

(3) 使用エネルギーの電化の取組

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
電化の割合	2.8 %	%	%	%	2.8 %

(4) 目標設定に関する説明

期間中において事業再編、機器更新による電力削減による。

(5) 計画期間の再生可能エネルギー源等の導入、電気事業者等から調達する電力の温室効果ガス排出係数等の状況

計画	期間中においては再生可能エネルギーへの転換計画は無し	
第 1 年度		
第 2 年度		
第 3 年度		
計画期間における再生可能エネルギー源等の導入等の評価 (第 3 年度の報告時に記載)		
上記評価を踏まえた改善対策など (第 3 年度の報告時に記載)		

7 温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項

(1) 全社を含む取組

ア 脱炭素表明・中長期の温室効果ガス削減目標の設定

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
(ア) 脱炭素に向けた表明の有無				
有無	2050年までの脱炭素化表明 有・計画有			
内容	当社の地球温暖化対策の取り組みについては、ホームページにて公表しています。 https://www.resonac.com/jp/sustainability/environment/climate.html			
(イ) 脱炭素に向けた表明の達成年度の目標				
年度	2050 年度	年度	年度	年度
(ウ) 中間目標				
目標	2030 年度	年度	年度	年度
	30 %削減	%削減	%削減	%削減
	(2013)年度比	()年度比	()年度比	()年度比

イ 脱炭素化に資するイノベーションの取組

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
有無	取組実績なし			
内容				

ウ 中長期的な視点での温室効果ガスの排出量の削減目標

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
有無	有			
内容	2030年までに2013年比30%削減			

エ 二酸化炭素を排出しない熱エネルギーの導入

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
有無	導入なし			
内容				

オ SBT等イニシアチブへの加盟・賛同

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
SBT	該当なし			
RE100	該当なし			
RE Action	該当なし			
TCFD	賛同済み			

カ サプライチェーン全体での削減の取組

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	記載なし			
内容				

(2) 市内事業所の取組

ア 川崎CNブランドの認定の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	製品・技術等の利用なし			
認証年度	過去6年以内に認証無し			

イ 川崎メカニズム認証制度の認証の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	取得有(過去6年以内)			
認証年度	2020年度			

備考 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

8 地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項（3から7までの事項を除く。）

（各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。）

<p>目標年度までの計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年発電所リプレイス計画における既存事業再編計画 ・KPR運転効率化によるエネルギー使用量削減 ・照明LED化/空調更新
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	

9 事業者における基準年度からの温室効果ガスの種類ごとの排出量の推移（4号該当者等）

温室効果ガスの種類	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)
①非エネルギー起源CO ₂ (②除く)	66,770				65,100
②廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源 CO ₂					
③CH ₄					
④N ₂ O					
⑤HFC					
⑥PFC	9,701				9,701
⑦SF ₆					
⑧NF ₃					